

⑧道の駅雨晴^{あまはらし}

受賞機関 富山県 高岡市

キーワード 産官学の連携、景観形成、地域活性化

全建賞審査委員会の評価ポイント

国名勝「おくのはそ道の風景地」に指定された「有磯海」（雨晴海岸）から立山連峰を望む日本有数の景勝地である高岡市太田地区における、道の駅雨晴の整備事業。地域資源の魅力発信拠点となるよう、地元住民代表、経済界、大学有識者等からなる産官学の検討会議を立ち上げ、コンセプトづくりから、景色になじむ屋外サイン、照明デザインまで景観に調和するように配慮した点が評価された。

1. はじめに

高岡市北部に位置する太田地区には、富山湾越しに3,000m級の立山連峰を望むことのできる雨晴海岸をはじめとした絶景、そして「万葉集」や「おくのはそ道」の歌の舞台となり、源平争乱の義経伝説が残るなど、様々な歴史と文化資産が数多く遺っている。道の駅雨晴は、この地区において、前面道路である国道415号の拡幅にあわせて、国道を管理する県との一体型整備手法により整備し、昨年4月25日にオープンした。

- 構造：RC造、地上3階建て
- 敷地面積：4,095.54㎡
- 延床面積：977.39㎡



道の駅雨晴の全景

2. 事業の概要

基本計画の策定にあたり、地元住民代表者や経済界、大学、行政等からなる検討会議を立ち上げ、議論を重ねた。特に、地域に誇りを持って歴史・文化資産の保存活用活動を進める地元住民の考えを尊重しながら、施設の基本コンセプトを「～とおくを想う～」とした。そこには、雨晴海岸の遙か遠景を楽しんでもらうことに加え、日々の喧騒から離れ、ゆったりとした時間を過ごすことのできる施設にするとの思いを込めた。（なお、「とおく」という言葉は、物理的な距離だけでなく、古代から中世、近世など、時代を超えた歴史や時間、目に見えないモノ

の背景などの意味を持たせている。）

設計にあたっては、基本コンセプトに基づき、国名勝に指定された『有磯海』（雨晴海岸）の風景を様々に楽しむことができる場所となるよう配慮した。具体的には、視点の高さを徐々に変化させながら眺望を楽しんでもらうため、建物の2・3階に展望スペースを確保し、それらを緩やかな階段でつないでいる。また、国道の拡幅整備にあわせて無電柱化も実施されており、階層建ての施設から開放感あふれる雄大な景観をより満喫してもらうことができる。

加えて、屋外サインや照明デザインも周辺景観に調和させるよう配慮し、良好な景観形成を実現している。



周辺景観に配慮した照明デザイン（写真：車田保）

3. 事業の成果

当初、当施設への来館者数については、雨晴海岸への観光客数の実績等を踏まえて、年間約20万人と見込んでいたが、見込みを大きく上回る約30万人の来館者数があった。

また、月に一度、展望スペース等を活用して地場農産物や地元デザイナーによる手作り小物などを直売するマルシェを開催し、地域の方々や地元企業の出店の場となり、地域と一体となって活性化を図る仕組みが形成されてきている。

4. おわりに

道の駅整備が単なる「ハコモノ」作りで終わることなく、整備をきっかけに、地域住民や観光関連企業、地元企業など一層交流・連携を深め、真の地方創生に努めてまいりたい。

賛助会員 (株)アーキヴィジョン広谷スタジオ